

令和6年度女性医師支援・ ドクターバンク連携九州ブロック会議



常任理事 涌波 淳子



令和6年度女性医師支援・ ドクターバンク連携九州ブロック会議

日時 令和6年9月28日(土) 14:00～16:20
場所 宮崎観光ホテル 東館3階「碧耀」

- 1 開 会
- 2 挨 拶

宮崎県医師会長 河野 雅行
日本医師会女性医師支援センター長 角田 徹
日本医師会常任理事 松岡かおり

- 3 報告・協議

- (1) 日本医師会女性医師支援センターからの取組報告
日本医師会常任理事 松岡かおり
- (2) 宮崎大学医学部からの取組報告
宮崎大学医学部医療人育成推進センター特別助教
宮崎県地域医療支援機構大学分室
キャリアコーディネーター 中村佳菜子
- (3) 各県医師会からの取組報告、情報交換及び問題提起
 - ① ドクターバンクについて
 - ② 女性医師支援について
 - ③ 医師の働き方改革（特に女性医師にとっての働き方改革）について

- 4 次年度開催担当県の選出
- 5 閉 会

連日35度を超えた猛暑からひと段落ついた令和6年9月、宮崎観光ホテルで上記会議が開催された。

宮崎県医師会長河野雅行先生、日本医師会副会長で日本医師会女性医師支援センター長の角田徹先生、日本医師会常任理事松岡かおり先生のご挨拶ののち、松岡常任理事から直近の日本医師会女性医師支援センターの取組についてご報告があった。

日医の女性医師バンク（女性医師のみならず男性医師も活用可）は平成19年に開設され、8月現在累計就業成立件数は3,430件でまだまだ少ないが、年々成立実績は上がってきており、令和5年度は常勤23件、非常勤229件と上がっている。最近では日医公式LINEから簡便に登録できるシステムができているが、まだその周知ができていないのが、課題だと感じた。

女性医師支援のための講習会や研修会の託児支援補助は継続して行われており、更に今年度からは、県医師会だけではなく、郡市区医師会が主

懇 親 会

日時 令和6年9月28日(土) 16:30～18:00
場所 宮崎観光ホテル 東館3階「緋耀」

- 1 開 会
- 2 挨拶
- 3 乾 杯
- 4 歓 談
- 5 閉 会

催する「地域における女性医師等支援のための会」に対しても参加者1名につき3,000円、最大25名分までの助成が開始されており、より身近で使いやすい助成金ができている。

また、前年度ブロック会議後の活動としては、

- 1) 女性医師バンクとハローワークとの連携、
- 2) 日医女性医師バンクと都道府県医師会ドクターバンクとの連携、3) 50代医師の将来のキャリアプランに関する調査が行われており、特に1)、2) は医師紹介会社に多額の紹介料を払っている現状を少しでも打破するきっかけにつながることを期待する。沖縄県医師会はいち早く日医の医師バンクと連携を始めており、今後、その強化に努めていければと思う。

3) はシニア世代の医師の更なる活躍と男女共同参画の推進に向けた具体策の検討と政策提言のための資料作成を目的として50代の日医会員約4万人を対象にウェブアンケートが行われた。回収率16.2%なので極めて限られた結果ではあるが、9割弱の医師が引退年齢を決めていないと回答する一方、4.3%の医師が65歳以下での引退を予定している事(男女差なし)、就労継続する場所としては、65%が現在の居住地近くである一方、3.8%は移住予定とし、移住先を選択する時に重視する上位3点としては、①社会インフラが整っていて住みやすい、②気候が良い、③親戚、友人がいたり、出身地となっており、沖縄県は上位7番目に位置している。今年度は、8年ごとの定点調査として全国の病院に勤務している女性医師を対象に実態調査を行う予定と報告があった。

次に、宮崎大学医学部医療人育成推進センター特別助教兼宮崎県地域医療支援機構大学分室キャリアコーディネーターの中村佳菜子先生からの報告があった。宮崎県は医師少数県という危機

を県、大学、県医師会が「オールみやぎ」を合言葉に連携し、乗り越えようとしている事が非常に伝わった報告であった。「地域枠」で入学した医学生が安心して地域の中で就業しながらキャリア形成ができるように1年生の時からサポートが開始され、様々なセミナーやグループワーク、全体ミーティングが開催されている。また、「宮崎から医師をめざそう応援フォーラム」として中高生や保護者を対象に、医師としてのやりがいや実際の生活等について、医学生、臨床医、研究医等様々な立場からのメッセージを送っている等の報告があった。

各県医師会からの活動報告に関しては、これまでは、各県からの報告だけをすることで時間が押してしまい、質疑応答が十分できなかったが、今年度は、宮崎県が作成したアンケート調査を九州各県で行い、その結果を元により具体的な質疑応答がなされた。県によって取組の濃淡はあるものの各県とも「何とかしないとイケない」という危機感の共有と「各県とも頑張っている」という連帯感が感じられたのではないかなと思う。その中で特に感じたのは

- ①男性医師の育児休暇取得率には、上司(部長や教授)がお手本として取ったり、その言動が大きく影響を与えている
- ②未来の女性医師発掘として高校生などに説明をしているが、それは、「成績が良ければ医学部へ」という高校側の安易な進学指導に対して、「医師になることの倫理観」等を伝えていく良い機会になる
- ③地域枠からの離脱を防ぐために学生時代からの教育や支援、特に、実際に離島等で働いている医師たちとの交流が大切

という事であった。

次年度は沖縄県が主催県となる。開催準備をしながらも、それをきっかけに、課題である、「県医療政策課」と「琉球大学医学部」と「県医師会」が共に検討する場を作ったり、今回日医が作ってくれた郡市区医師会でも活用できる助成金が活用できること、また、日医のドクターバンクとも連動できたので、県内での活用を強化できる活動を考えていきたい。